

新しい公共支援事業の成果等報告
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1. 成果等報告

モデル事業名	あきる野菅生の自然環境保全活動事業
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)
事業実施 主体名	あきる野菅生の森づくり協議会
実施期間	平成23年4月1日～平成25年3月31日
支援額 (注釈参照)	9,613,451円 委託費:3,189,600円 印刷製本費:457,725円 施設等の整備費:1,212,900円 消耗品費:1,658,133円 使用料及び会場借料:161,650円 諸謝金:1,235,000円 人件費:1,800,000円 その他の経費:73,170円 旅費:308,900円
マルチステークホルダー (会議体)の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> あきる野市は、あきる野市郷土の恵みの森構想を踏まえた総括的な事業運営への関与、広報あきる野や市ホームページによる事業の周知や各種イベントの募集、構成団体間の連絡調整、協議会の会計としての経理など。 明星大学は、里山活性化事業におけるワークショップの進行と取りまとめ、里山の再生に係る技術的な提案と実践(作業)、里山活性化事業における土壌改良の提案と実践、授業の一環(環境基礎ゼミの野外実習)としての里山の管理作業、農業の人材育成講座における農作業と指導者補助(学生)など。 NECフィールドディング株式会社は、里山活性化事業における里山の再生や昔道の復活に係る継続的な作業、各地でのCSR活動の実践を踏まえた効率的、効果的な作業提案など。 ふるさとの森づくりセンターは、NPO法人が持つ多様な主体と連携した事業の運営経験による技術支援や柔軟な事業運営のノウハウの提供、機動力のある森づくりの実施など。 菅生町内会は、地域の尾根道整備や土地利用計画の策定に係る地元の意見調整や地元理解と合意形成の醸成、これらの実現に向けた人的の動員と継続的な取組の実施など。 あきる野青年会議所は、青年会議所の持つ経験と知識を活かした森づくりや特産品開発等へのアイデアの提供及び特産品の販路の研究など。
事業概要	本地区の里地・里山の利活用を進め、地域の活性化につなげるため、里山の保全・活用に関する活動及び新しい技術や知見を導入した地域活性化の調査・研究を行い、郷土教育を通じた持続的な利活用を進め、「里山への回帰による森づくり」を実践していくとともに、地域の特産品の開発にも取り組む。
事業内容	(1)-1 あきる野菅生の森づくり協議会の運営 菅生町内会、明星大学、NECフィールドディング株式会社、あきる野青年会議所、特定非営利活動法人ふるさとの森づくりセンター及びあきる野市を構成員とする「あきる野菅生の森づくり協議会」により、菅生地区で取り組む里地活性化事業や里山活性化事業の検討を行い、各種事業を実施した。(8回開催)

	<p>(1)-2 シンポジウムの開催 全国初となる産学官による自然環境保全活動等の活動を広く周知するため、シンポジウム『森の活用と地域活性化～みんなでつくる未来の菅生～』を開催した。(1回開催)</p> <p>(2) 里地活性化事業について</p> <p>(2)-1 人材育成系 森づくりと連携した農業技術の継承や農業者の育成を図り、地域を活性化させるため、野菜を育てながら農業の基礎を学ぶ人材育成講座を実施した。 (参加者数:3講座16回 318人)</p> <p>(2)-2 特産物系 高齢化や後継者不足等により耕作や手入れがされなくなった農地や雑木林を活用し、菅生地区の気候風土に適した農作物について、流通を意識して生産することにより、地域住民の連帯や経済的な助けとなるよう農産物の特産化として、生産する品目の検討と試行栽培(フルーツトマト、ブルーベリー、メロン、椎茸、山菜など)を行った。</p> <p>(3) 里山活性化事業について</p> <p>(3)-1 ワークショップ(保全活動と育成)について あきる野市が所有する菅生大沢の開発残土処理地について、多方面の意見を取り入れ、豊かな里山へ再生するため、ワークショップ形式で熱心で活発な議論を重ねつつ、土地利用や利活用の検討を進めた。(参加者数:7回 232人)</p> <p>(3)-2 自然環境教育について 自然環境教育や体験事業を通じて、森づくりや自然環境保全等の担い手を育成するため、各種の環境教育イベントを実施した。(参加者数:5事業、14回 400人)</p> <p>(3)-3 癒しの森づくり(森林セラピーの場作りと体験)について 森の癒し効果に注目し、体と心を健康にする「森のさんぽと語りあい」を実施した。 (参加者数:17回 82人)</p>
<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>このモデル事業は、産学官と地元を巻き込んだ協働事業として、里地活性化と里山活性化を進め、これにより地域の活性化を目指すものであり、このような形態による活動は、全国初の試みであり、大変、先進的な取組といえる。</p> <p>各種事業の実施に当たっては、行政による協議体の信頼性確保及び確実な実行、大学による学術的アプローチ、企業による人的供給、地元のNPO法人による技術支援、機動力のある運営等及び青年会議所の経験と知識の提供など、各者の持ち味を活かした運営により、充実した活動が展開できている。</p> <p>特に、菅生地区を対象としているため、地元自治会の理解と協力は不可欠であり、事業継続の鍵と考えているが、地元町内会の方からは、森づくりのワークショップへの参画、農業の人材育成講座や特産化農作物の試験栽培への協力、環境教育イベントでの講師の協力や会場の提供等を受けている。</p> <p>このように、本事業は、地域の中で理解され、受け入れられており、市民の積極的な参加も進んでいる。</p> <p>一方、本事業については、当初より長期的なスパンで計画をしているが、更に事業を充実・発展し、軌道に乗るまでの資金調達については課題がある。</p>

	評価 ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)
--	-----------	---

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2. 添付書類

自己評価シート